5　本時案（第○次　○/○）　○月○日（○）○校時　　場所：○○教室

（1）ねらい　（文末は、「・・・することができるようにする。」が一般的）

●本時の学習が目指す子どもの姿

子どもが、「どんな学習活動を通して、どんな学習内容を身に付け、どんな状態になるようにする」のかを記述する。　一般的には二つの立場がある。

①本時だけで達成したい子どもの姿を明確に記述する場合（国語や算数等）
　＊本時の学習内容が明確で、子どもの姿が外から見取りやすい場合。
　＊見方・考え方、技能などを「易から難へ」「単純から複雑へ」と段階的に育もうとする学習の場合。　など

②複数時間で達成したい子どもの姿を記述する場合（生活、体育、音楽等）
　＊同じ活動が繰り返されるスパイラルな学習の場合。
　＊情意的なねらいを大切にする学習の場合。　など

●「意識の流れ」「発問・指示」の項目を独立させて記述することもある。

（2）学習過程

	学習活動・学習内容	支援（○）と評価（◆）
つかむ 深める	*たとえば、* **③こんな活動を仕組む** 1　・・・・（学習活動）・・・ ・・・・・する。（○○分） （学習内容） ・○○への関心、見通し ・○○しようとする意欲 ・○○ができること（技能） ・○○**を考えること** ・○○（知識・理解）など **①　こんな内容を育むために**	**②　こんなことに留意して** ○（子どもたちが）・・・できるようにするために、（教師が）・・・する。 ◆考え方（プリント） ◎発展的な理解ができるように、ドリル○ページの図形の求め方を二人組で説明し合うようにする。 ○一層の習熟のために、教科書○ページをノートにさせる。 △教科書○ページの長方形を使った例題に取り組ませる。 （△の子どもへの支援のみ書く場合も少なくない。）

■①→②→③の順で考えたり、逆に③→②→①の順で授業のイメージを確かにしたりする中で、学習内容を精選するとともに、支援の具体を明確にする。（この作業が最も大切である）
■子どもの実態（習熟度や興味・関心等）を考慮して、学習活動が複数になることがある。
■評価（◆）したことが、本時あるいは次時の支援（○）の根拠になる。評価の結果、どのような支援がなされたか明記する。

子ども意識、活動の姿を十分イメージすることが大切。